

新生児聴覚スクリーニング検査のお知らせ

赤ちゃんの健やかな成長はみんなの願いです。しかし、生まれてくる赤ちゃんの1,000人に1~2人は、生まれつき耳のきこえに問題があると言われています。その場合には、早く発見して適切な支援をしてあげることが、赤ちゃんのコミュニケーションやことばの発達にとっても大切です。そこで、赤ちゃんが生まれた時に耳のきこえの検査(新生児聴覚スクリーニング検査)を受けることをお勧めします。

<どんな検査ですか?>

当院では、自動聴性脳幹反応(自動ABR)(または聴性脳幹反応(ABR))という検査を行っています。これは、音が聞こえた時に出る脳波の一種を検査する方法です。検査は出生後入院中に、赤ちゃんが寝ている時を見計らって行います。検査中の痛みや違和感などはありません。検査にかかる時間は10分程度です。検査結果は「パス(pass)」、「要再検(refer)」のいずれかで、入院中にわかります。

<結果が「要再検(refer)」だった時は?>

もし、検査の結果が「要再検(refer)」であった場合でも、直ちに耳のきこえが悪いということの意味するものではありません。「要再検(refer)」とは、もう一度検査を受ける必要があることを意味するものです。産まれたばかりの赤ちゃんは、耳のきこえに問題がなくても、耳の中にまだ羊水が残っていて、検査で反応が得られない場合があります。また、検査時に泣いたり、動きすぎたりしてうまく判定できないこともあります。これらの場合は、さらに詳しい聴力検査を行う必要があるため、担当の医師から説明を受けてください。最終的に聴覚に障害があるとわかった場合でも、早くから適切な支援を行うことによって、赤ちゃんのこころやことばの発達を促すことができます。また、お住いの地域の保健センターや最寄りの療育機関に相談することもできます。

<結果が「パス(pass)」なら、一生、きこえの心配はありませんか?>

必ずしも「パス(pass) = 一生きこえている」ということではありません。入院中の聴力検査で「パス(pass)」であっても、これからの成長の過程で、中耳炎やおたふくかぜといった、生まれた後にかかる感染症による難聴や、先天性の原因でもあとから難聴がでてくることがありますので、今後も引き続き、お子様のきこえの状態やことばの発達に注意してください。

<検査の費用は?>

この検査は保険適用にはならず、自己負担額は_____円です。

ご不明な点は、下記の担当者までお問い合わせください。

医療機関名 _____ 担当科 _____ Tel _____

同意書

新生児聴覚スクリーニング検査を受けることに同意します。

保護者氏名 _____ 赤ちゃんとの続柄 (_____)

保護者住所 〒 _____
電話番号 _____

年 月 日